

# 漁業者の甲子園!!

## 第18回全国青年・女性漁業者交流大会／受賞報告⑤

### 農林水産大臣賞

#### 多面的機能・環境保全部門



柳田代表

そこで潜水器漁業者を中心に海洋コンサルタント、学識経験者、カメラマンらが集い、平成22年にNPO法人INOを設立、環境保全や資源管理に取り組むことにした。

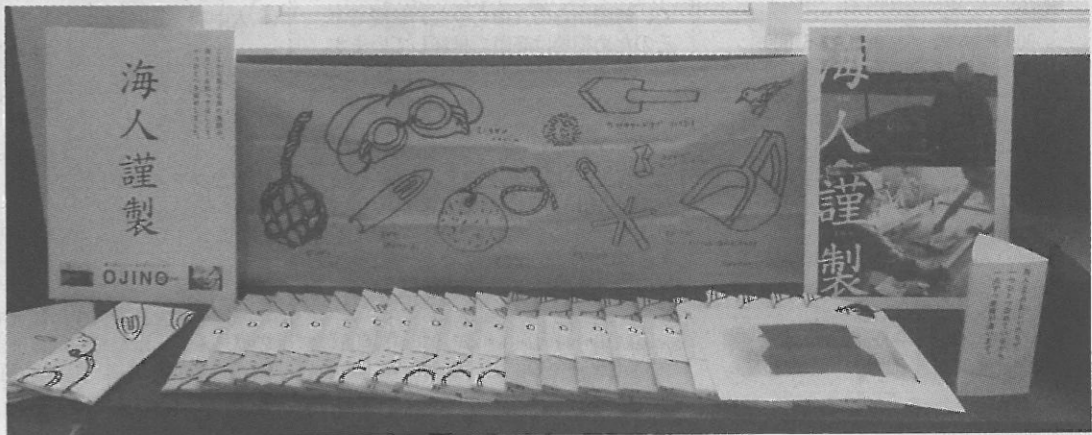
#### ■海を守るヒント

先人の姿に学ぶ。資源減少の原因は、ここ数十年の乱獲の結果であり、漁場環境も埋め立てや陸域からの汚染でかなり悪

た。彼らは自然に密接な航海術や漁法に知恵と経験がある。姿を消したのもあるが、それらを試行、体得することで、未来の漁業につながるヒントを探り出す。

ンゴの植え付けを行った。サウジアラビアの基金による助成にも事業が採用され、植え付けには30～80歳代の漁業者に参加してもらっている。今年度からの新たな「サンゴ増殖プロジェクト」には、沖縄市漁協と

当法人が協働で取り組んでいく。作業は植え付けて終わりではない。モニタリングや手入れを行うためのデータを蓄積していく。規模はまだ小さいが、活動は頻繁にマスコミへ取り上げられており、子供た



高齢漁業者と手掛けた手ぬぐい作り

### 海人(漁業者)が作ったNPO法人

#### サンゴ礁の里海をめざして

沖縄・JF沖縄市漁協 NPO法人INO 柳田一平



ーとして協力している。■脱助成金に向け 独自事業も展開 INOは設立3年とまだ始まったばかりだが、陸の仕事が苦手な年配の漁業者に、サンゴの植え付けなど、少しずつ海に関係した仕事を提供できるようなようになってきた。この1年間で活動日当として約160万円

## 漁師が守り、じっくり育てる海に

### NPOを漁業者らで設立

海を休ませ、資源を管理するには、魚を獲る以外の仕事で代替収入を確保する必要があります。

そこで、60年以上の漁業経験をもつ大先輩漁師たちから聞き取り調査を実施し

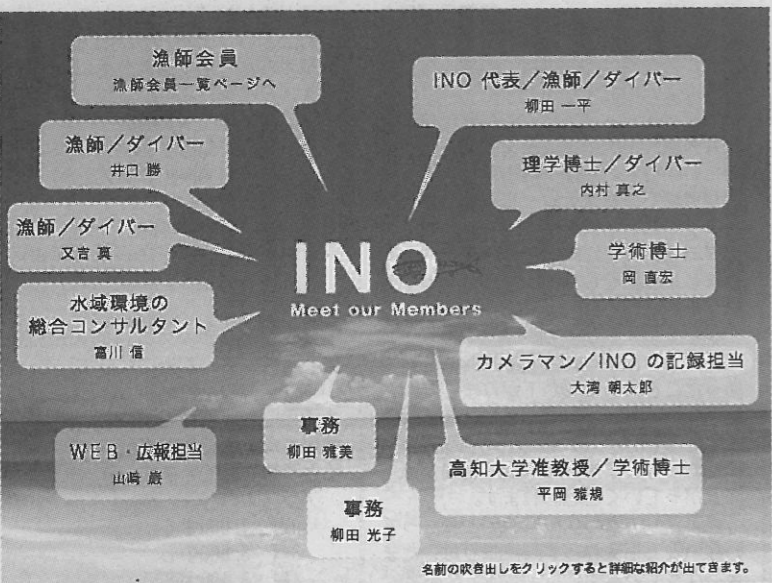


漁協と連携して行うサンゴの植え付け ちへの環境教育や環境調査と合わせ、県全体のサンゴ確保全へ大きな普及啓発効果が期待できる。

を、漁業者に支払っている。 個人としても昨年、植え付け用の養殖サンゴの販売から150万円以上の収入を得ることができた。沖縄ではサンゴ礁再生を目指し、各地でサンゴの植え付け活動が行われている。需要は増大しており、漁業者グループの養殖によって供給する方向が望まれている。

最近では漁業者の高齢化対策と助成金依存からの脱却に、法人独自の収益活動にも取り組んでいる。漁具を手作りしてきた高齢漁業者との物作りで、第一弾は手ぬぐい。昔の漁の様子や漁具をモチーフにしたデザインには、企画から製造販売のすべての工程に参加してもらっている。地元観光ホテルの土産物売場で販売中だ。

漁師会員も近年、10人ほどメンバーが増員された。少しずつだが輪の広がりを実感している。



多方面から集うINOの主要メンバー (ホームページから)

戦っていくきたい。こうした情報は多くの人に触れられるよう、当法人のホームページでも発信している。 ■養殖サンゴ 植え付けと育成 近年ではサンゴ礁破壊も著しい。高水温による白化減少、赤土汚染、オニヒトデの食害が3大要因と言われているが、原因はさまざま。美しく、魚たちにとっても重要な役割を果たすだけに、自分たちで養殖と植え付けを始めた。

21年に県知事から許可を受け、ミドリイシ類など7種類のサンゴの養殖試験を開始。昨年は沖電開発(株)へ養殖したサンゴの販売や、琉球銀行の助成を受け、沖縄市漁協の漁業者と養殖サ

沖縄市漁協は25年早々に、「潜の部会」を設立した。沖縄県水産海洋研究センターと連携し、漁業者が資源調査していく。漁業者主体の資源管理へと発展できると、コーディネータ